

刑 法

注 意 事 項

- I 試験開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- II 解答用紙は 1 枚だけ配付します。
- III 解答にあたっては、黒のボールペン・黒インクのペンのいずれかを使用してください（ただし、インクがプラスチック消しゴムで消せないものに限りです）。それ以外で解答用紙に記入した場合は、無効とします。
- IV 解答を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1 行の場合には横線で消して、その次に書き直してください。修正液・修正テープを使用してはいけません。
- V 設問が複数の場合は、解答用紙に設問番号を明記したうえで、解答してください。設問番号の記入がない場合は、無効とします。
- VI 試験時間は 80 分です。
- VII 問題は 1 ページにあります。

刑 法

甲は、夫 X を自殺に見せかけて殺害するために、強力な睡眠導入剤を摂取させた上、意識を失った状態で首にロープをかけて自宅かもしにつるし、い死させる計画を立てた。X が 4 日間の予定の出張で家を空けた初日に甲は、かもしの強度を確認した上、睡眠導入剤とロープを用意し、睡眠導入剤を X が習慣的に飲用しているインスタントコーヒーの瓶に混入した。瓶内のインスタントコーヒーの残量は僅かになっており、甲が混入した睡眠導入剤の量は、均一に混ざっておれば、極端に薄くいれない限りは一杯分のコーヒーで十分な効果を生じるに足りるものであった。甲は、この睡眠導入剤を混入したコーヒーを X の帰宅後に自らいれて X の飲用に供すべく手渡すつもりであった。甲と X は子供がおらず二人きりの生活をしており、コーヒーは必ず甲がいれて X に飲ませるのが常であり、X は、自分のコーヒーを自分でいれる習慣を持たなかった。

用務先での案件が予想外に早く処理できた X は、予定を切り上げて出発後 3 日目の昼頃帰宅した。X の帰宅を予想していなかった甲は、買い物に出かけて留守であった。そうした状況も予想していた X は、「しばらくは帰ってこないだろう」と考え、きまぐれから、自分でインスタントコーヒーをいれようと思い立ち、甲により睡眠導入剤を混入されたコーヒーをいれて飲んだ。X には X 自身にも知られていなかった当該薬剤に対するアレルギーがあり、X はこのコーヒーを飲んだことによってアナフィラキシーショックを起こし死亡した。この薬剤がアレルギー反応を起こすことがあることは医学的には知られているが、その結果死に至ることはまれであるとされている。

甲の罪責を論じなさい。